コアカソ *Boehmeria spicata* (Thunb.) Thunb.

イラクサ科　Urticaceae

1.　利用対象部位：靭皮繊維

2.　組織形態：

雌雄同株の多年生草本でしばしば岩壁などから下垂し、長さ 1m ほどになる。茎は下部で太さ 0.5cm 程度、断面円形、髄は中実で髄腔とはならない。表皮は 1 細胞層でクチクラは薄い。下表皮は発達しない。数細胞層からなる柔組織の内側に靭皮繊維がある。靭皮繊維は皮層と一次篩部の間にほぼ全周的に発達するが、多数の柔細胞と混在している。繊維細胞は断面多角形、単独あるいは 2〜3 細胞程度が互いにくっついて繊維細胞塊となるが、アサのような大きな塊とはならない。一次組織の分化に引きつづいて形成層が活動し、二次篩部を作るが、二次篩部には繊維組織は形成されない。

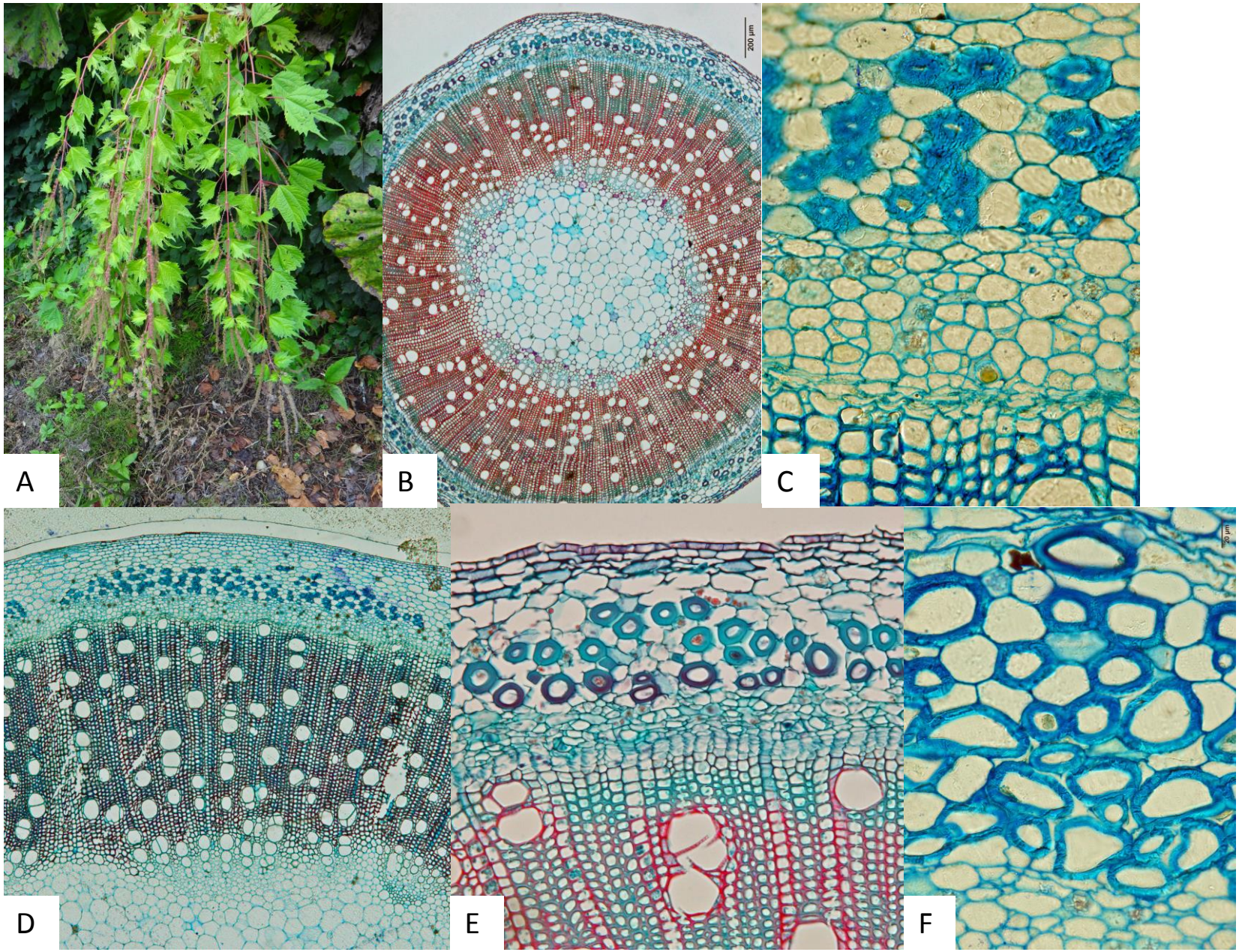
コアカソはカラムシ属の中では茎は短く細く、形成される繊維の量も多くは無い。

3.　利用例：なし？

4.　遺跡出土遺物：　鈴木ら（2017）は青森県に目屋村の川原平（1）遺跡（縄文時代晩期）の漆漉し布 3 点について、コアカソも含めた意味での「イラクサ科の繊維」と報告している。

小林和貴・鈴木三男 2015.　「神谷地遺跡の土壌墓から出土した朱漆組の素材」　横手市教育委員会『神谷地遺跡・小出遺跡』:448-449.

鈴木三男・能城修一・小林和貴・佐々木由香 2017.　「木質遺物・繊維製品の素材植物同定」　青森県埋蔵文化財センター『川原平（1）遺跡Ⅷ』



A:コアカソの茎葉（岩手県二戸市）。崖面に生える茎はしばしば下垂する。B＆D:夏の茎の横断面とその拡大。皮層中央にまばらに集まった繊維細胞群が環状にある。髄は中実で丸い。C～F:繊維細胞群。繊維細胞は単独あるいは数個が塊になっていて、それらの間には薄壁の柔細胞がある。Eの内側の繊維細胞は細胞壁が厚くなりつつある。　Fの繊維細胞群は比較的細胞壁が薄い。